

認知症フォーラム「あきらめない～最新医療と社会の支え」

認知症フォーラム「あきらめない～最新医療と社会の支え」が6月25日、群馬県高崎市の同市文化会館で開催された。認知症を早期に見つけるためのポイントや、より良い介護のあり方などをテーマに講演と討論が行われ、認知症患者の家族や、介護施設の職員ら650人が熱心に耳を傾けた。

認知症を取り巻く状況は、どのように変わってきたか。

大澤 以前は治らない病気の代名詞でしたが、最近では薬の進歩を遅らせたり、生活習慣の改善で予防したりと、様々な手立てが登場してきました。

患者さんとかかわり方も変わってきたのでしようか。

井上 認知症の人のコミュニケーションは、そんなに簡単にはとれません。けれども、その人に本当に真面目に向き合っていると、必ず道は開けます。

田部井さんは、お母様の介護を行われたと聞きましたが、どのくらい続きましたか。

田部井 15年ほどです。お金がないとか、お米がないとか心配になると、その心配を自分の中だけでため込んでおけず、家族に訴え続けずにはいられない状態でした。家にいる限り、家族はいつもの攻撃の的とされ続けました。

認知症とはいえず、しよつちよつ言われるという感じです。

田部井 そうですね。当時から、私はデイサービスの仕事などにかかわり、知識を持って母親と接したはずなのですが、それでも私は、結果的にあまり優しい息子ではなかったと思われています。いくら自分の親とはいえ、介護では大きなストレスがたまりまます。家族の人たちは、大変だとか、つらいとかという

思いを、包み隠さず話せる人や場所をぜひ持ってほしいと思います。

認知症とは、一体どのような状態なのか。

患者とまっすぐ向き合って

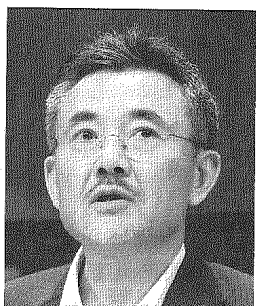
周辺症状 漢方薬で軽減

「ご飯まだ」はメッセージ

介護のつらさ話す場を

大澤 生理的な老化による物忘れと認知症の違いは、記憶の問題の言え、例えば夕飯を食べたこと自体を忘れてしまうのが認知症の特徴で、夕飯に何を食べたか、その内容を忘れてしまいうのが老化による物

体忘れてしまうのが認知症の物忘れで、夕飯に何を食べたか、その内容を忘れてしまいうのが老化による物



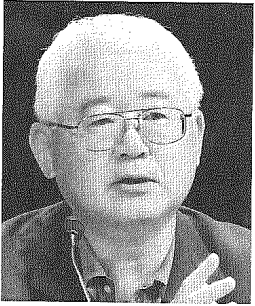
大井戸診療所理事長 大澤 誠さん

信州大医学部卒。老年精神医学を専門とし、87年、群馬県伊勢崎市で同診療所を開業。認知症の高齢者の在宅医療などに取り組む。56歳。



NPO法人 じゃんけんぼん理事長 井上 謙一さん

高崎市などでグループホームを運営。2002年から地域通貨を使った相互助け合いのまちづくりを開始。認知症の人を地域で支える活動を続ける。57歳。



認知症の人と家族の会 理事 田部井 康夫さん

1982年から「家族の会」で活動。83年、民間のデイケアセンターの設立に参加。99年、介護していた認知症の母親をみる。61歳。



コーディネーター 町永雄雄さん (NHKアナウンサー)

介護では、きめ細かなケアも大切ですね。井上 本人の行動を、介護者が一つのメッセージとしてとらえることが大切です。なぜそうなるのかというところまで掘り下げて考え、その人が見えてきます。適切なかわり方で、周辺症状は改善する可能性があります。

「ご飯まだ」といふ言葉が使われるようになった。その人を中心としたケアという意味ですが、実際はなかなかわかり方をするのでしようか。

井上 さっき「飯を食べた」と聞かれた場合、「もう食べたじゃない」とすべし否定せず、なぜ「ご飯まだ」というのかを考えることが、その人中心のケアにつながる。

認知症になると、適切な言葉が出てこなくなりますが、「ご飯まだ」といふ言葉は、もしかすると「私に近づいてきてよ」というメッセージなのかもしれません。

「パーソン・セントラード」を地域に広げることが大切ですね。井上 高齢者、認知症になっても今の地域に住み続けたいですかと質問すると、7割の人が「はい」と答えます。ところが、住み続けることは可能ですが、質問すると「はい」は半分になってしまします。認知症を理解のある医師は多くても、地域にどのくらいいるのか、私たちが分らない。教えてくれる場所もない。個々の医師やボランティアの力を、組織的な動きにする仕組みづくりが求められています。

田部井 地域の支えによって、認知症のひと家族は、世の中からうすく思われてはいないかと感じることがあります。介護が終わった家族が、自分たちの経験を生かそうと、デイサービスを始めた。家族の会の運営に携わったりする動きが出ています。そういうところにも、私は大きな希望を感じています。

認知症の原因は、いくつもあるですね。大澤 はい。日本では、脳梗塞などから起る脳血管性認知症が多かったのですが、今はアルツハイマー病が半分を占め、続いて脳血管性、レビー小体型と続きます。このほか、もっと若い年齢で発症するピック病などもあります。

レビー小体型の特徴 大澤 アルツハイマー病の薬として日本で唯一使えるのが、ドネペジル塩酸塩(商品名アリセプト)です。

認知症の薬について 大澤 アルツハイマー病の薬として日本で唯一使えるのが、ドネペジル塩酸塩(商品名アリセプト)です。

認知症の原因は、いくつもあるですね。大澤 はい。日本では、脳梗塞などから起る脳血管性認知症が多かったのですが、今はアルツハイマー病が半分を占め、続いて脳血管性、レビー小体型と続きます。このほか、もっと若い年齢で発症するピック病などもあります。

認知症の薬について 大澤 アルツハイマー病の薬として日本で唯一使えるのが、ドネペジル塩酸塩(商品名アリセプト)です。

認知症の薬について 大澤 アルツハイマー病の薬として日本で唯一使えるのが、ドネペジル塩酸塩(商品名アリセプト)です。

認知症を治す薬ではなく、進行を遅らせる薬です。世界では、ほかにもいろいろな薬が出ていますが、日本ではまだ使えません。

アリセプトにはどんな副作用がありますか。大澤 吐き気や下痢といった胃腸障害が、飲み始めて間もなく出る場合が多いですね。興奮したり、怒りっぽくなったり、多動になったりといった症状も出る場合があります。

主催 読売新聞社、NHK 前橋放送局、NHK 厚生文化事業団 後援 厚生労働省、認知症のひと家族の会 協賛 ツムラ



あなたのそばで、漢方は進化を続けています。